

PBL (Problem-based Learning)

【1】期 間 R7.4.10～R7.9.18

【2】担当教員 (◎は主責任者)

コース責任者 ◎磯部 威 (教授, 呼吸器・臨床腫瘍学)

牧石 徹也 (教授, 総合医療学)

担当講座: 皮膚科学, 整形外科, リハビリテーション科, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 歯科口腔外科学, 麻酔科学, 救急科学, Acute Care Surgery, 産科婦人科学, 小児科学, 精神医学, 腫瘍内科, 放射線腫瘍学, 緩和ケア, 総合内科, 呼吸器・化学療法内科, 呼吸器外科, 循環器内科, 循環器外科, 消化器内科, 消化器・総合外科, 内分泌代謝内科, 血液内科, 脳神経内科, 脳神経外科, 腎臓内科, 泌尿器科, 膠原病内科

【3】授業の目的

診療の基本となる、症候・病態について、臓器横断的な鑑別診断から、臓器特異的な診断について、自己学習及び少人数のグループ学習を行い、過去の講義資料に加えて、教科書・参考書・各種文献・臨床意思決定支援ツール (up to date など)、さまざまなツールや手法を駆使して仮説の検証を行う。これらの学修を通じて問題の提示、解決の能力、さらにはグループにおける議論及びプロダクトを生成する作業を通じてチーム医療につながる、コミュニケーション能力を養う。

【4】授業の到達目標

講義内で説明します

【5】授業の内容および方法

第1回 症例1提示 グループ学習

第2回 症例1追加情報① グループ学習

第3回 症例1追加情報② グループ学習

第4回 症例1追加情報③ グループ学習

第5回 症例2提示 グループ学習

第6回 症例2追加情報① グループ学習

第7回 症例2追加情報② グループ学習

第8回 症例2追加情報③ グループ学習

第9回 症例3提示 グループ学習

第10回 症例3追加情報① グループ学習

第11回 症例3 追加情報② グループ学習

第12回 症例3 追加情報③ グループ学習

第13回 発表

【6】授業の進め方

本コースでは、内科系、外科系の全講座を3グループに分けて、それぞれ1症例、合計3症例のシナリオが提示される。各症例で与えられる情報は、臨床に即した流れで提示されていく（例：①問診、②身体所見、③簡単な検査結果、④詳細な検査結果）。症例の情報が提示される度に、学習課題が提示される。受講者は、提示された情報及び課題を元に自己学習とグループワークを行う。グループワークでは、各々の知識や考えを他者に説明しながらグループのメンバーで議論を行い、その時点の疑問点や学習課題を明らかにし、次回までに調べてくる。そして、次のグループ学習で個々の自己学習の成果を共有してさらなる議論を行いながら、その時点での疑問点及び学習課題を列挙し、各々で調べてくる。これらを繰り返しながら最終的に、各症例で列挙されたプロブレムリスト・思考プロセス・結論・学習内容などをまとめたスライドを全グループが1症例につき1つ作成し、3症例のスライドを提出する（1つはプレゼンテーションを行う）。グループ学習は、他者の視点を知ることにより広い視野で問題を考えたり理解したりするために重要であり、積極的に参加する。

【7】授業キーワード

Problem-based Learning

SDGs：Sustainable Development Goals、

すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに

臨床推論

チーム医療

【8】参考文献（その他）・授業資料等

1. Harrison's Principles of Internal Medicine, 21th Edition
2. 内科学 第12版 朝倉書店 31,900円
3. イヤーノート 2023 内科・外科編 26,400円

【9】成績評価の方法およびその基準

全グループが全3症例のスライドを作成して学務課に提出し、そのうち1つはプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの際には、その症例を作成した担当講座から教員が1名ずつ参加して、評価を行う。また学務課に提出された残りの2症例のスライドは

学務課から担当した講座に配布され、各講座の教員が評価を行う。評価は、ルーブリック（内容・知識・構成・プレゼンテーション）に準じて採点する。各症例の評価は、その症例を担当（採点）した講座の平均点となり（1 症例を 3 講座で作成した場合は、3 講座の採点の平均点となる）、全 3 症例の採点を合計したものがそのグループの評価となる。各グループの評価が、そのままグループのメンバーの評価となる（この点数を持って、個々人の合否判定も行われる）。

【10】局所解剖 なし